

パラワン島南部調査報告

—マケラヤ・パラワンの通過儀礼—

The Maglaya Pala'wan's Ritual Cycle of Man .

*The Ethnological Survey in Southern Palawan, Philippines
in 1969 .*

横浜市立大学探検部

*Scientific Expedition Society
of Yokohama City University*

パラワン島南部調査報告(1)

—マグラヤ・パラワンの通過儀礼—

小森亨二

I. はじめに

II. マニラよりマグラヤ部落へ

III. マグラヤ部落とその住民

IV. マグラヤ部落の聖職者

V. マグラヤ・パラワンの通過儀礼

VI. おすび

I. はじめに

この報告は横浜市立天竺探検部の調査隊の一員として1964年8月18日より43日間にかけてフィリピン共和国パラワン島南部のパラワン族の居住するマグラヤ部落において住み込み調査をした結果の整理です。

本調査は私にとって最初のフィールド・ワークでしたので調査項目を通過儀礼だけに絞り調査を行いました。

調査期間を半ばにして通訳とトラブルがあり、それ以後は通訳なしで、それまでに覚えたパラワン語を使って調査を進めなければなりませんでした。

しかし、通訳が事実を歪曲して伝える可能性を考えると、通訳なしで住民の言葉を使って調査をしたのは、ある意味では良かったかもしれません。

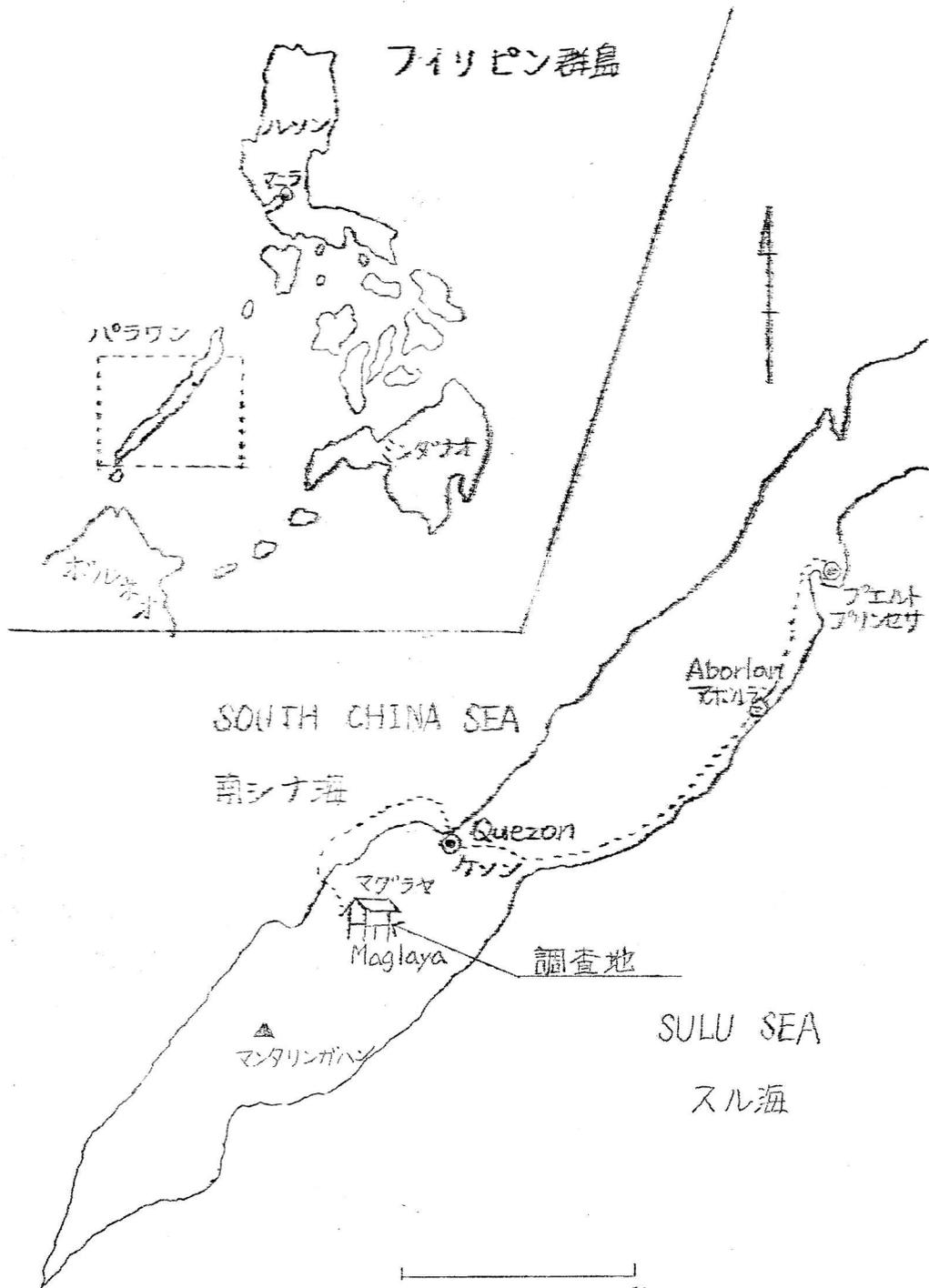
調査も終わりに近づいた時に、住民から彼らの靈魂觀を聞き出すことができたことは、本調査を通じて最大の喜びでした。

II. マニラよりマグラヤ部落へ

1969年8月1日、マニラから飛行機でプエルト・プリンセサまで飛び、そこから日本製の小型トラックを改造したバスで道路予定地のような道を158 Km南下するとバスの終点である南シナ海に面したケソン村に着く。我々はここをベースにして、パラワン族に関する情報収集、その他住み込み調査に必要な準備をした。目指すパラワン族の居住するマグラヤ部落は、ジャングルやマングローブに行く手を阻まれケソン村からは陸伝いに入り込むことは到底困難な文字通り「陸の孤島」である。

バンカ（エンジン付の小船）に2カ月分の食料、燃料、医薬品等に乗せ、ケソン村の入江から南シナ海にのり出した。

紺碧の海とあらゆるコントラストをなす海岸沿いの輝く緑



パラワン島

を左手に見ながら我々のパンカは進んだ。

無人島がいくつも点在している。それらは私の探検心をゆさぶった。パンカが進むにつれ、継岩の海は透明度を増し、相当深いところにあるサンゴも手にとるようにはっきりと見えくる。海岸線に打ち寄せる波の白い泡が青と緑の単調さに刺激を与える。海水を浴びピッチングに悩まされること3時間、やっとタゲサオ河に着いた。我々はここで収縮し、荷物を降ろした。ここからは荷物を背負って進まねばならない。容赦なく照らす亜熱帯の強烈な陽ざしを浴びながら、マグラヤ部落を目ざして、ただひたすらに歩く。5分も歩くと汗が頬をつたう。3時間程歩くと山の麓にきた。我々はさらにジャングルを突き進んだ。小川のようにジャングルの間を走る細い道は、膝まで達するぬかるみであったり、大木が根こそぎ倒れていて閉ざされていたりで足びりはおぼつかない。ジャングルの中は無数の樹木が強烈な陽ざしを遮断し薄暗く、熱帯特有の鳥のはでな鳴き声が聞える。やっとジャングルを抜けると収穫期の焼畑が広がっていた。まだ目ざす部落には達していない。しかしもう近いということがわかった。

次は幅10m程の河を渡る。水に濡れるのを避けて河原を歩いたが、腰まで水につかぬのはしばしばであった。

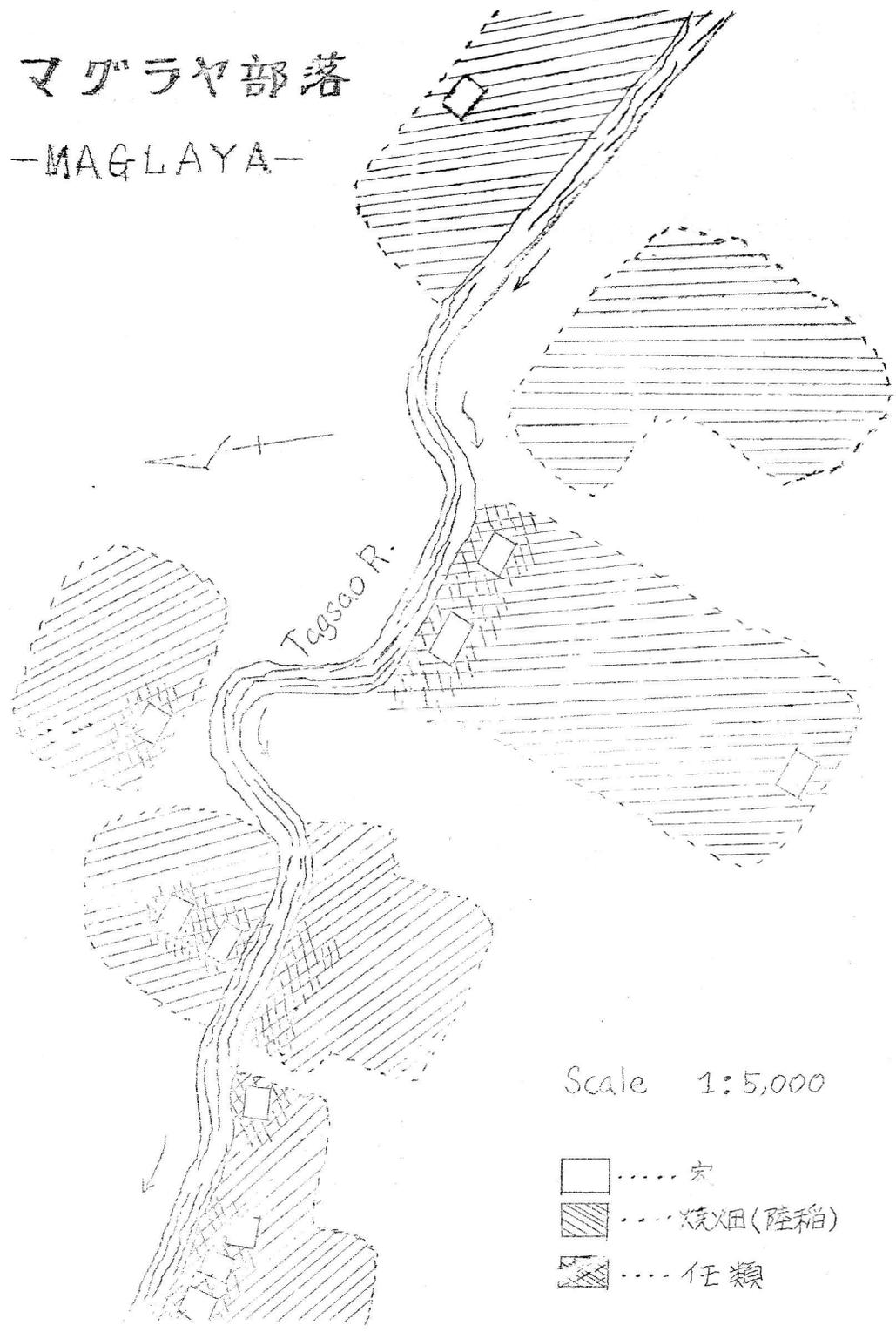
河岸の平地に2軒の家屋が見えた。やっとマグラヤ部落に着いた。我々はいせいに荷物を降ろし、そこによたよたと坐り込んでしまった。タグサオ河の河口を朝出発したのだが、もうマグラヤ部落は美しいピンクの夕焼けに包まれていた。この日から我々は43日間の住み込み調査を開始した。

Ⅲ. マグラヤ部落とその住民

マグラヤ部落は人口50人程のパラワン族の部落の一つである。パラワン族は、原マレー人種、アジア語族のうちのインドネシア語派に属する。生業は焼畑農耕を中心として、槍や罾を使ったの野豚の狩猟、毒のついた吹き矢を使うサル、鳥類の捕獲等、狩猟に4種類、漁撈には7種類の方法があり、さらにイモ類、貝類の採集も併用している。

社会集団はその生業形態から、小家族の独立性が弱く、同時に焼畑農耕という粗放農業の低生産性は、人口集中を許さず、6世帯から10世帯程度の血縁集団が一単位となって、土地共同体を形成している。~~この共同体を形成している。~~この共同体はロロングと呼ばれ、一定の領域を3~4年ごとに移動している。結婚は妻方居住婚で結婚に際しては、夫が妻方の親族に多額の婚資を支払う必要がある。

マグラヤ部落
 -MAGLAYA-



Scale 1:5,000

- 家
- ▨ 畑(陸稻)
- ▩ 任類

IV. マグラヤ部落の聖職者

叙ゆの中では、聖職者はバリヤン(Baliyan)と呼ばれ、マグパンガトールとマグトロンの2種類がある。前者は、司祭であり、農耕儀礼に重要な役割を占める。後者はシャーマン的な色調が強く、ディワタ(diwata)という先祖霊の助けを借りて病氣治療にあたる。そして死者が出た場合や耳穴式などでも中心になり、通過儀礼全般に主要な役割を果す。また薬草などに関する知識も豊島にもち、呪術だけにまらず病氣治療を行うこともしばしばある。

V. マグラヤ・パラワン(Maglaya Palawan)の通過儀礼

マグラヤ・パラワンにおいて、明らかに通過儀礼と考えられるものは、女子の耳穴式、結婚式そして葬式の三つである。そして原因不明の病氣、精神錯乱になった場合にマグトロンを呼んで行なう病氣治療の儀礼がある。この儀礼は、個人の一生において生理的、精神的に不安定な時期において行なわれる儀礼であるから、通過儀礼の一つと考えても良いと思われる。マグラヤ・パラワンの通過儀礼の数はフィリピンの他の部族と同様にそれほど豊かではない。

これらの通過儀礼の行なわれる時期は、葬式を除いて、収穫が完全に終了した12月~2月に集中している。

以下で述べる儀礼を通して、幾らかの二元的対立が、他のインドネシア諸地域の双分制と同様に儀礼の構成要素となっている。

1. 耳穴式

マグラヤ・パラワンの女性は必ず結婚するまでに耳穴式を行う。耳穴式はイヤリングをつけるために両耳に針で穴をあける儀礼である。耳穴式の時期は出生直後から結婚式にまで散っている。調査を通じて最も早い例は生まれるとすぐに父親が娘に耳穴をあけたという例であり最も遅い例は結婚式において耳穴式が行なわれた例である。出生直後に行なわれる場合以外は耳穴式に宴会が伴う。宴会には酒が伴うものと食事だけというものの2種類がある。そしてこのような耳穴式が行なわれるかなり前に父親によって Ampo (天上神) に対し約束される。以下に示すように約束の内容には、はっきりとした日時を示すれない。出生直後に耳穴をあけた場合はイヤリングをつけるに適する大きさになるまで耳穴に糸を通しておく。父親が耳穴のあけ方を知らない場合はマグトロンに頼んでやってもらう。

Ampo に対する約束はマグトロンによって作られ父親は、

それを教えてもらい、家の中でひとりになって暗える。

耳穴式の行なわれる時期は非常に流動的であるが、それぞ
れ、出生、initiation、結婚の祝福の意が込められていると
考えられる。

事例 1.

Apariの娘である Polia が2才の時、非常に体が弱かった
ので Apari は病氣治療の儀礼を行った。その後 Apari は、
Ampo に次のような約束をした。

Tumingkag Ko Dumo Ampo Na Beri Yagang
Ko Mag Sakit Mang Ipa Nongamo Sakit Ya
Sekud Tadukan Mangaan Nga Kami At Bagong
Banuwa Kunyang Gurang Gurang Marayo
Makabi Ting Kagun Ko Nga .

(訳) 神よ、あなたは罪深い。私の娘は病氣である。もし、
娘の病氣が治れば、私は新しい家に親類の者達を招き、
娘の耳穴式を行う。

Polia は現在 (Sept. 1969) 7才で元気である。Apari
は、収穫後、新しい家を建て、1969年12月に耳穴式を行な
う。

事例 2.

Darasag の娘である Lauina が 2 才のとき元気であったが、彼は次のように Ampo に約束をした。

Ampo, Barang Kai Magsakit Etong Yagang
Ko Sapag Tadok Kunya Maginom Kami Tinapoi
(訳) 神よ、もし私の娘が病気になるがこのまま健康
であつたら、娘の耳穴式には酒宴を催します。

1968年 Lauina が 6 才のとき Darasag は約束通り tinapoi (米で作った酒) を作り盛大に耳穴式を行なった。

2. 結婚式 (salò)

まず結婚の約束は本人たちの父親の話し合いで決定される。また、ヤコにおいて婚資 (onsoi) や式の日取りも決定される。婚資は夫方から妻方の父親に与えられる。婚資の額を決定する際には妻方の父親が要求を示し双方の事情により決定される。夫方は予定の期日までに婚資を準備しなければならない。もし期日までに準備できなかった場合には、妻方の父親に対していつまでもおうと約束し、一応同居する。

この約束を守れば結婚式を挙げて正式な夫婦として認めら

れるが、もし期限までに婚資を払えなければ婚約は解消になる。このように婚資は形式的なものではなく、経済的にも、社会的にも非常に重要な意味を持っている。婚資の額は通常彼らにとっては相当の高額であるから、男は10~11才に煙草を与えられてから婚資の準備を始める。

婚資には3種類があり、1. 現金, 2. 物品, 3. 現金と物品。物品には食物, 道具, 衣類等がある。次にそれぞれの例を示す。

1. 現金

100ペソ

2. 物品

- banuwa (家) ----- 1軒
- salapat (真鍮製のケス) ----- 4個
- mano (鶏) ----- 4羽
- bogas (米) ----- 4ganta
- tadion (筒状の布) ----- 4枚
- baju (衣類) ----- 4着
- galang (腕輪) ----- 4個
- mand (ネックレス) ----- 4個

3. 現金と物品

- ・ 20 ペソ
- ・ sanang (ゴング) …… | 個
- ・ bujak (槍) …… | 本
- ・ tokao (電刀) …… | 本
- ・ salapat (真鍮製のケース) …… | 個

初婚の結婚式は、夫が結婚式の約1カ月前に tinapoi (米で作った酒) を作る。そして式は妻方の父親の家で行なわれ、バリヤンが新郎新婦に tadion (筒状の布) かぶせることから始まる。二人は tinapoi をカマから竹筒で飲み、飲み終えたらバリヤンが tadion をはずし、二人が中央に進んで一つの皿で食事をしてから外に出ることを許され自由になる。この後出席者が順に tinapoi を飲み酒宴が始まる。

新郎新婦は式の間、お互いに触れることを強く禁じられている。これは彼らの婚前交渉の禁忌を象徴的に示している。

式は夕方を始められ、酒宴は真夜中まで続けられる。

再婚の結婚式は初婚の場合よりも婚資の額は少なく、式は食事をするだけで酒宴も伴わず極めて簡素である。再婚に比べると初婚は尊重されている。

事例1.

1940年に Kama1 (25才) は Makaya (24才), Lisikai (28才) の姉妹と結婚した。Kama1 は妻方の母親 Dalmia に婚資として20ペソ, 薪1本, 塩カ1本を払った。また彼は結婚式の一カ日前に tlapoi... 17ganta 作り宴会に備えた。結婚式は Dalmia の家で行なわれた。

出席者

夫方

Nolapat (Kama1 の父)

Sornino (" の第1イトコ)

Lumiana1 (" の第1イトコ)

妻方

Dalmia (Makaya, Lisikai の母)

Apari (" の弟)

Popotan (" の第1イトコ)

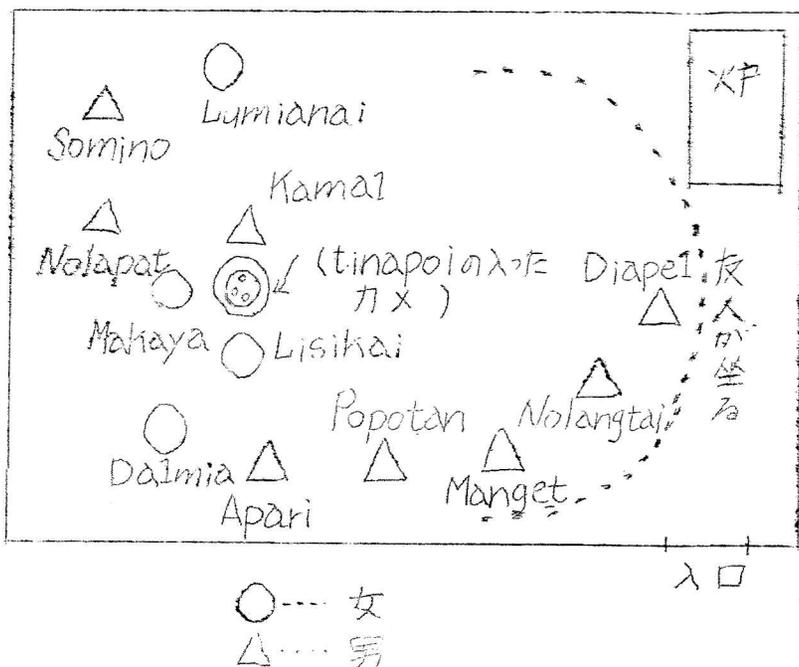
Nolangtai (" の第1イトコ)

Diapel (" の第1イトコ)

Manget (" の第1イトコ)

そして夫方, 妻方双方を知っている友人13名が出席した。

着席の仕方は下図のようである。夫方、妻方の近親者は、はっきりと分かれるが、友人はどちらにも属さないため自由に着席する。



式

1. バリヤンである Nolatpat が Kamal, Makaya, Lisikai に tadion をかぶせる。
2. 3人は竹筒で tinapoi を飲む。
3. 3人が tinapoi を飲み終わったら Nolatpat が tadion をとる。
4. 3人は中央に進み食事(米, 野豚, 鶏)をする。
5. 食事が終わったら3人はお互いに融れることを許され

そして家を出る。

6. 残った出席者たちが順にtinapoiを飲み酒宴が始まる。

sanang (ゴング) や guimbal (タイコ) に合わせて踊り歌い、これが真夜中まで続けられる。

注. 1. 1 gante 15cm x 15cm x 15cm

2. 結婚式の食事は妻方によって準備された。

3. 葬式

人が死ぬと死体は頭を東に向けて damdam (樹皮で編んだマット) の上に寝かされ、そこへマダトロンと呼ばれる。

マダトロンは Saitan (悪霊) が家に入ら来ないように入口の柱に石灰 (貝殻で作った白い粉) をまく。そして死体を Saitan から守るために家の周囲を見張る。死者の近親者は家に集り眠らないで死者を見守る。その間、彼らは死体の上手に坐ることを禁じられている。そして死体を犬や猫そして人間が横切ることを強く禁じている。夜が明けると死体は水で洗われ、木の皮と damdam で包まれる。その際死者の日用品 (歯刀, 衣類等) が共に包まれる。死体を包み終わるとすぐに二人の男にかつがれ墓地に向う。墓地に着くと縦 2 m, 横 0.7 m, 深さ 1.3 m 程 (大人の場合) の穴を歯刀やヤシの殻で掘る。そして死体の頭を東に向けて埋葬し、野豚に

墓を荒さぬように囲いを作り葬式は終わる。墓地は竹ヤブでおおわれており、墓地全体の目印になっている。彼らは死者が死んでから16日間は墓地に近寄ることを禁じられている。幼児が死んだ場合は父親がひとりで包み、墓地に埋葬する。高齢者の葬式ほど人々は多く集る。

彼らは人間(tao)が死ぬと肉体(ankatpuya)だけが地上(labo)に残り靈魂(koloduwa)は口から出て天(lage)に昇って行く。天にはAmpoがおり、そして先祖の靈魂もいる。天からは地上での出来事がわかりAmpoや他の靈魂と話ができると信じている。

事例

Sominoは1959年5月28日の早朝に死んだ。葬式はBasai(Maglayaから歩いて1時間)で行なわれた。

Sominoは長い間危篤状態であったため出席者は一週間前に集っていた。

出席者

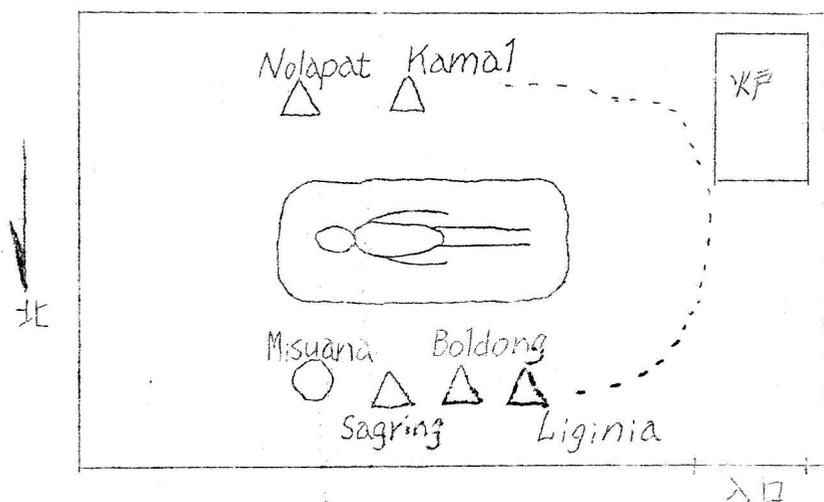
- Miswana (Sominoの妻)
- Liginia (" の息子)
- Boldong (" の息子)
- Sagring (" の息子)

Nolapat (Sominoのオジ)

Kama1 (" の第1イトコ)

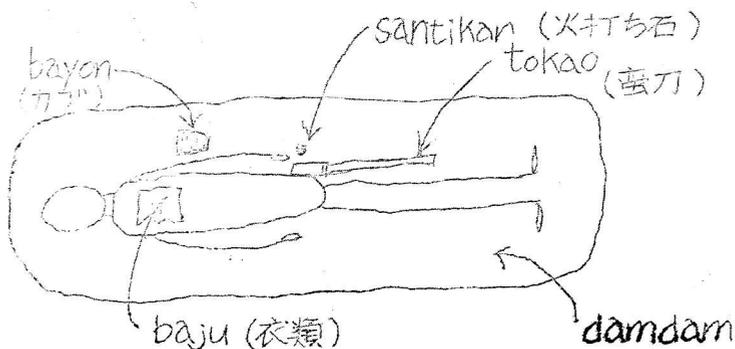
その他 17名

彼らは次のように着席した。

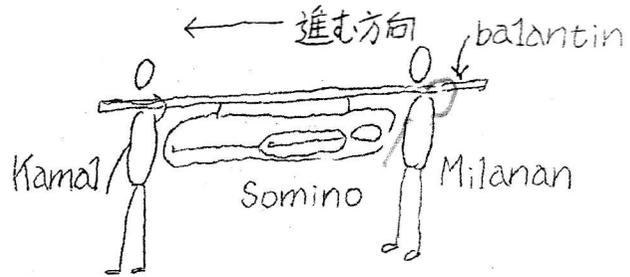


式:

1. Nolapat と Kama1 が Somino の体を水で洗う。
2. Kama1 と Milonan が副葬品 (衣類, 蛮刀, 火打ち石, カゴ) と共に Somino の体をマットで包む



3. 包み終わるとすぐに balantin (木の棒) にしぼりつけ、Kama1 と Milanan がかつぎ、先頭を行き、他の出席者はその後をついて行く。かなりゆっくりと歩く。

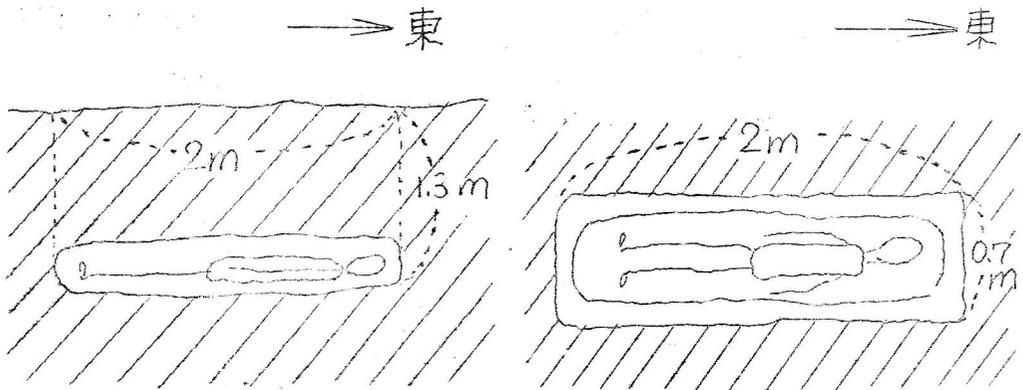


4. 墓地に着くと、みんなで垂刀や木の棒やヤシの殻で穴を掘る。そして遺体を埋葬する。その時に Nojapat が次のように唱えた。

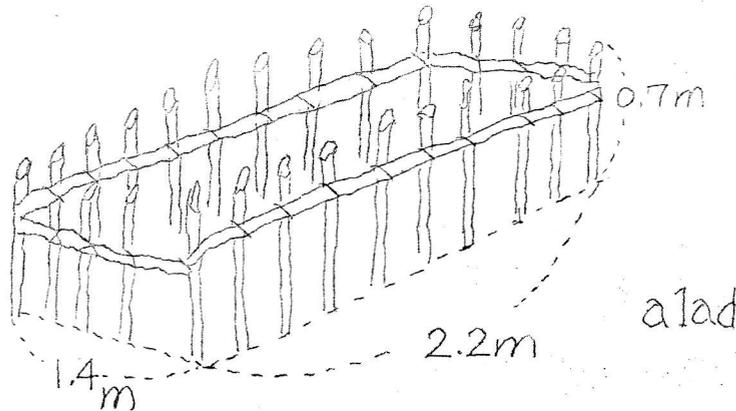
Ampo Nang Arai Kasalanan Yakut Natai

Ikaw Nai Bald Kun Yamag Patawad

(訳) 神よ、もしこの死者に罪あらば、許せ。



5. 穴に土を埋め、周りに囲いを作る。



6. Milanan は木で高さ 1.2m 程の十字架を墓に立てた。

この事例はパラワン族のキリスト教徒のものである。キリスト教の影響は No.4 での Nolapat の唱えた言葉と No.6 の十字架に見られる。非キリスト教徒の葬式においては、No.4 の言葉と No.6 の十字架が無いだけで埋葬方法は、まったく同じである。儀式におけるキリスト教の影響を示すために、この事例を記した。

4. 病気治療の儀式

病気治療の儀式は原因不明の病気や精神錯乱に対して行なわれる。患者の家族の男が tinapoi を作りマグトロンを呼んで、親類の者を招待して行なう。儀式の中では、マグトロンは腰に tadion をつけ女装する。そして酒を飲み sanang や guimba 1 に合わせて踊る、マグトロンが神がか

りの状態になるまで酒を飲み踊り、それをくり返す。神がかりの状態になると、マグトロに diwata (先祖霊) がのり移り病気の原因を告げる。そしてマグトロンは患者の体の一部から *Saitan* を吸い出す。儀式の後、マグトロンは高額のお礼金を受け取る。

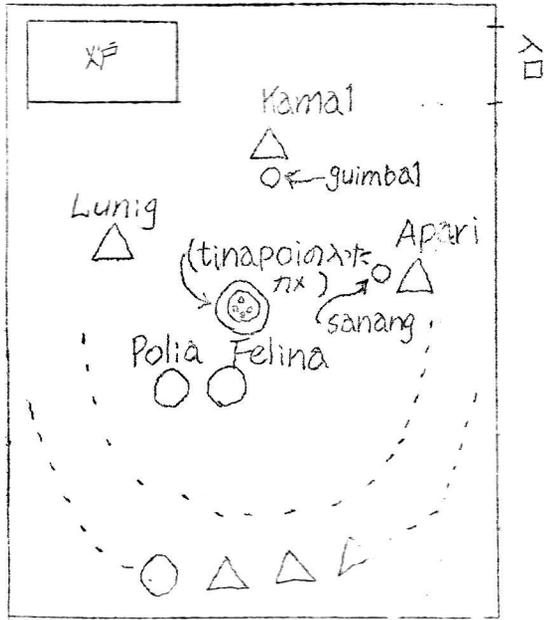
マグトロンには特定の diwata があり、diwata は、Ampo のいる天と地上とを往来できる霊魂である。マグトロンは Ampo と直接話をできないので diwata がその仲介を果す。

事例

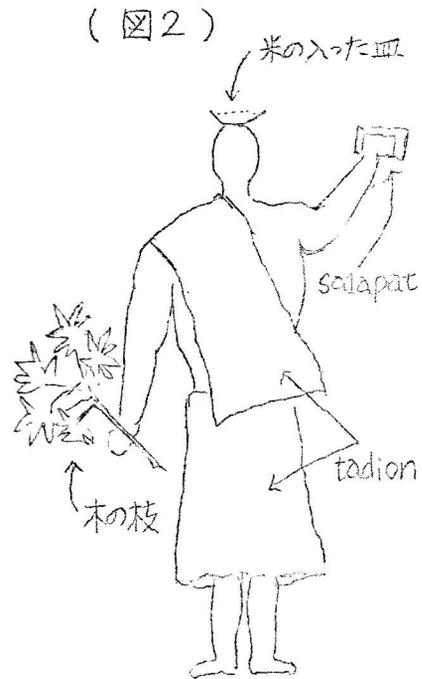
Apari の娘である Polia が 2 才の時、非常に体が弱く、それは原因不明であった。Apari は収穫後 tinapoi を作るマグトロンである彼の妻の父親 Lunig を呼び病気治療の儀式を行った。

式

1. tinapoi の入ったカメは部屋の中央に置かれ、その近くに母親の Felina が Polia を抱いて坐る。(図1)
2. Lunig は tadion をつけて女装し左手に木の枝を持ち、右手に4本のタバコの入った salapat (真鍮製のケース) を持って、頭に米の入った皿 pingan) をのせる。(図2)



(図 1)



(図 2)

3. Lunig は酒を飲み、Kamal が guimba1 を叩き、Apari が sanang を叩き始める。それに合わせて Lunig が踊る。
4. 酒を飲み踊り、酒を飲み踊りと、くり返している内に、やがて Lunig は忘我状態になってくる。すると彼は diwata から病気の原因を知る。
5. 病気の原因がわかると、Lunig は Polia の額に口をつけ吸う。そして酒を多量に飲み、その場に寝入ってしまう。
6. 出席者が順に酒を飲む。

Ⅵ. むすび

私の調査には、問題意識が少なかつたので、分析するほどの満足な資料が得られず、この報告が調査結果の整理だけに終わったことは残念です。

むすびに代えて、反省と今後の研究課題を示しておきたいと思ひます。通過儀礼の出席者を構造的に記述しておけば、それぞれの儀礼の営む機態を解釈するための主要な手がかりが得られたと思ひます。今後の研究課題としては、パラワン族の位置付けのために、彼らの通過儀礼、靈魂觀を東南アジアの諸民族のものや他の焼畑農耕民のものと比較研究することが必要だと思ひます。

最後に、この調査に際し、御教示、御協力くださいました関係諸氏に感謝の意を表します。

昭和45年7月 9日

Ⅵ. むすび

私の調査には、問題意識が少なかったので、分析するほどの満足な資料が得られず、この報告が調査結果の整理だけに終わったことは残念です。

むすびに代えて、反省と今後の研究課題を示しておきたいと思います。通過儀礼の出席者を構造的に記述しておけば、それぞれの儀礼の営む機態を解釈するための主要な手がかりが得られたと思います。今後の研究課題としては、パラワン族の位置付けのために、彼らの通過儀礼、靈魂觀を東南アジアの諸民族のものや他の焼畑農耕民のものと比較研究することが必要だと思えます。

最後に、この調査に際し、御教示、御協力くださいました関係諸氏に感謝の意を表します。

昭和45年7月 9日

パラワン島南部調査報告
(第1号)

発行・編集 小森亨二 

横浜市立大学探検部
横浜市金沢区六浦町4646

Ⅵ. むすび

私の調査には、問題意識が少なかったので、分析するほどの満足な資料が得られず、この報告が調査結果の整理だけに終わったことは残念です。

むすびに代えて、反省と今後の研究課題を示しておきたいと思ひます。通過儀礼の出席者を構造的に記述しておけば、それぞれの儀礼の営む機態を解釈するための主要な手がかりが得られたと思ひます。今後の研究課題としては、パラワン族の位置付けのために、彼らの通過儀礼、靈魂觀を東南アジアの諸民族のものや他の焼畑農耕民のものと比較研究することが必要だと思ひます。

最後に、この調査に際し、御教示、御協力くださいました関係諸氏に感謝の意を表します。

昭和45年7月 9日

パラワン島南部調査報告
(第1号)

発行・編集 小森享二 

横浜市立大学探検部
横浜市金沢区六浦町4646